

耐久性とデザイン性に優れた漆革バックの開発

守田漆器株式会社 守田 貴仁*

■技術開発の背景

弊社は、轆轤挽(ろくろびき)で有名な山中漆器の製造業である。400年以上続く職人たちの高度な技術を活かして、漆器以外の異業種と共同で木製照明器具、漆アクセサリーなどオリジナル商品の製作に取り組んでいる。5年ほど前に国産革のメーカーから漆をコンセプトとしたコラボレーションのオファーがあった。しかし、当時は革生地に漆のみを塗装した漆塗膜は耐屈曲性に乏しく、革製品へ応用する場合、漆塗膜の割れや剥離が発生しやすいことが課題となっていた。そこで、工業試験場で研究開発された漆と弾性に優れる樹脂(弾性樹脂)を用いた技術の移転を受け、全面漆塗りの革小物を試作した。その後、伝統工芸のクオリティを表現した漆革バックの開発に取り組んだ内容を紹介する。

■技術開発の内容

工業試験場の物性評価による高品質な漆革を開発し、ファッションとオンラインショップに知識がある外部専門家と連携してデザイン開発を行った。同時に革メーカーとの試作、見本市のバイヤーや現地の専門店の意見を反映した製品開発を行った。

①高品質な漆革

弾性樹脂を下塗した上に漆を塗る加工条件が異なるサンプルを摩擦堅ろう度等の試験により評価し、漆の色艶が美しく、手触りが良くて折り曲げ可能な高品質な漆革を開発した。

②スタイリッシュなデザイン

ジュエリーアーティスト藤田圭子氏、デザイナー原嶋亮輔氏の Keisuke ブランドにより、スタイリッシュなフォルムと漆の色艶を特長としたデザインを開発した。



URUのHI × keisuke

図1 製品化した漆革バック

■製品の特徴

革のしなやかさと独特な色艶ある漆革のバックである(図1)。漆は天然由来の抗菌作用もある上、従来の染革より汚れが付きにくく湿布等で簡単に拭き取ることができるため、メンテナンスしやすい。また、山中漆器の特徴である色彩(漆黒、溜漆、赤漆)を表現した。

■今後の展開

開発した製品を国際見本市(東京インターナショナル・ギフト・ショー春2023)に出展し、目を惹くデザイン性で注目を集め、漆革も材料提供の引き合いが多かった。今後は、さらにギャラリー等での催事やSNSによりユーザーを広げていきたい。

* 代表取締役 Email: japan.jokan@gmail.com
代表者名: 代表取締役 守田 貴仁
住 所: 〒922-0106 加賀市山中温泉上原町ワ 528
TEL 0761-78-0106 FAX 0761-78-5311